

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の検証結果について（令和4年度）

事業名/事業費	事業内容	指標 (KPI)重要業績評価指標	地方創生への効果/その理由	今後の方針/その理由
山鹿市ふるさと 未来創造事業 事業費 13,800,000円	■にぎわい再創出事業 （１）観光誘致対策事業（コンベンション宿泊助成） （２）来訪者を呼び込むための仕組みづくり ■ふるさと未来創造事業 （１）ｅスポーツを活用したにぎわいづくり、ICT人材育成 （２）まちゼミ等を活用した市内事業者間の交流促進、事業者間の連携強化、人材育成 （３）「やまがびと」	①観光入込客数（千人） ②観光宿泊者数（千人） ③観光消費額（百万円） ④まちゼミ参加店舗数（件） （目標値）⇒（実績値） ① +33 +118 ② +4 +73 ③ +129 +3,242 ④ +6 -20	➤ <u>効果があった</u> 新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも、K P I ①②③について達成することができた。ｅスポーツなどについては民間主体の取組が開始されており、新たな誘客促進へとつながりつつある。K P I ④の「まちゼミ」については、コロナ禍の影響で参加店舗数が減少したものの、店舗独自で開催する事業者や複数の講座を行う事業者も数店舗あった。しかし「まちゼミ」をビジネスチャンスとして捉え、活用できていない事業者も多く、意識の低さが明らかになった。	➤ <u>計画どおりに継続</u> にぎわい再創出事業については、福岡方面へのP Rを強化し、スポーツ合宿やコンベンション宿泊者を増加させる。ふるさと未来創造事業については、店舗などの従業員の高齢化や後継者不足、事業者同士のつながりの希薄さといった課題が明らかになったことにより、新たにまちを元気にする人材の活躍の場の創出、店主と市民の交流と、事業者の異業種間の交流促進につなげるため、若手事業者への人材育成塾を開催し、新たなビジネスプランの創出により収益を上げつつ、地域課題の解決と地域のにぎわい創出につなげる。